



令和6年2月22日
大津市立瀬田南幼稚園
園長 平木 秀樹

雨の日が続いていますが、寒さが和らぐ日もあり春の足音が一步一步近づいてきているのが感じられます。園庭で遊べずに子ども達は少々不満顔ですが、ぼかぼか陽気の日には存分に体を動かして遊び、肌を通して季節の移り変わりを実感してほしいと思っています。今年度も残すところ1ヶ月余りとなりました。進級、入学という大きな節目に向けて、子どもたちが日々自分の成長を実感し、自信をつけていってくれるよう、しっかりと支えていきたいと思ひます。

生活発表会を終えて

2月9日の5歳児そら組をもって、すべてのクラスの生活発表会を無事に終えることができました。どのクラスも欠席がなく、全員がこれまでの幼稚園での経験や成長した姿を発揮することができて、何よりうれしく思っています。

保護者のみなさんからいただいたアンケートからも、子どもたちのこの1年間の成長ぶりを実感していただけたことを知ることができ、幼稚園の職員一同、本当に喜んでいます。当日は、緊張している姿もたくさん見られましたが、温かく見守っていただくとともに、おうちに帰ってからも認め、子どもたちの思いに共感していただけたようで、子どもたちの充実感と満足感は十分満たされたことと思ひます。そして、「自分は大切にされている」「自分はこれでいいんだな」という“愛され感”と“自尊感情”を育むことにもつながったのではないのでしょうか。

さて、クラスのみなでやり遂げた劇遊び。もちろん、大きな失敗なく終えることができれば安心です。しかし、幼稚園は、「結果」よりも「プロセス（過程）」を大切にしています。「結果」だけを求めるのなら、教師が作ったシナリオを繰り返して練習の方が確実ですし、その方が教師も楽かもしれません。けれども、子どもが友達と思いを出し合い、自分たちの劇を創り上げようとしていくプロセスに、子どもたちの成長の「芽」がたくさんあります。

3歳児さくら組については前回の通信でお伝えしたので、今回は4・5歳児のことを中心に取り上げさせていただきます。

4歳児ぱんだ組は、とにかく役になったの表現遊びが大好きだということで、なりたい役になって、日ごろ楽しんでいる遊びを取り入れたりしながら、演じる面白さが味わえるようになっていきました。2つの劇はいずれも、魔法のかかったお風呂や不思議なカブラを食べて別の動物に変身してしまうというお話でしたが、何に変身するかは事前に決まっているわけではなく、魔法使いをしているお友達が選んだ魔法の粉や抜いたカブラの形で決まるというドキドキ感やワクワク感を毎回味わうことができましたし、表現も自分なりに考えて動いたり、鳴き声を出したりしていました。また、何をして遊ぶのかも子ども達はその時相談をして決めたりしていました。（さすがに本番の遊びは決まっていたようですが…）



5歳児そら組は、お話のストーリーを子ども達とゼロから考えていったオリジナルの劇でした。自分はどんな役をしたいのか、その役でどんなことをしたいのか、どんなお話なら楽しいか…など、思いを出し合いながらお話づくりをしていきました。自分達で決めたセリフも実際に劇をすると恥ずかしくて言えなかったり、相手役から予定外のセリフが返ってきて戸惑ったり…「劇をする・劇をつくる」という目的を共有してはいるものの思いやイメージは様々なので、スムーズに進まずに困ってしまう場面も少なくありませんでした。時には先生から仲介や助言を受けながら少しずつ少しずつ劇としての形が見えてくるようになり、友達と思いや力を合わせようとする気持ちも高まっていったのでした。



このようなプロセスを経たからこそ、子どもたちの「友だちとやり遂げた！」という満足感は大きいものになったのだと思いますし、力を合わせる喜びや思いを出し合う大切さなどにも気付くことができたのだと思います。このような幼稚園でのいろいろな経験やそれを通して気付いたことなどを4月からの新たな生活で生かして行ってほしいと思います。

未就園児との交流を通して



「幼稚園で待ってるね！」

2月21日は、2歳児親子通園事業「わくわくクラブ」の今年度最終日で、3歳児さくら組の子ども達との交流を行いました。ままごとや魚釣り、空き箱製作など日頃クラスでしている遊びにわくわくのお友達を迎えて同じ場で遊んだり、関わったりするのを楽しみました。交流後には、さくら組の子ども達から手作りのカスタネットをプレゼントしました。4月からは、お兄さん・お姉さんとして優しく接してくれることを期待しています。

文字で遊ぼう！

5歳児そら組は4月から小学1年生です。小学校では、幼稚園の遊びを中心とした生活から学習活動が中心の生活へと変わっていきます。特に「文字の読み書き」については、子どもにとっても保護者の方にとっても大きな心配事なのではないでしょうか。幼稚園では、特別に文字を書く練習はしておらず、お店ごっこの看板やメニューを書いたり、友達とお手紙のやりとりをしたりするなど、遊びを通して文字に興味や関心を高めたいけるようにしています。4月からの入学を控えているそら組の子ども達には、さらに文字に触れ関心が高まることを願って、毎年お世話になっている地域の書道家 井之内香遙先生にお願いして『文字で遊ぼう』という活動を行いました。



事前に子ども一人一人の名前のお手本や運筆の練習ができるプリントなどを準備してくださり、正しい鉛筆の持ち方、字を書く時の姿勢などを丁寧にご指導くださいました。はじめは緊張気味の子ども達でしたが、やり進めるうちに少しずつやる気が高まり、たくさん先生にも認めていただいて入学への安心感や期待につながったようです。

最近のお子さんの様子や「文字で遊ぼう」など記事についてのご感想をお聞かせください。

みなみかぜ アンケート

お子さんのクラス _____ 組 お名前 _____